

2025年1月27日の今日、ある人の訃報を受け取った。  
連れ合いの鹿野政直氏による文面にこうある。

「堀場（鹿野）清子は 2025年1月10日その生涯を閉じました  
みずからの存在にかかわる 『女であること』 『核爆発を浴びたこと』の意味を問い続け 発酵する思念を 実証性と批評性をもってことばに結晶させてゆく人生 であったと思います」

堀場さんに、この度の編著書制作に当たって「引用」の許しを乞うたのは、1月5日の手紙であった。鹿野氏から快諾と伏せられているとの返事をいただき、心配していたのだが、、、  
無念、ショックである。

堀場さんとは、2020年3月に突然電話を頂いて以来の交流である。「一社 被曝と健康研究プロジェクト」の交流誌に何度も登場頂いた。優れた詩人、女性史研究者であった。14歳で被爆した。

かつて矢島翠は、

「第一に強圧的な権力・権威に対する反抗の精神。反戦、反天皇制、フェミニズムの信念、そして人の目でなく自分の目で事実を見据えてやまない情熱」

「第二に、その情熱の持続性、一貫性においてきわだち、」

「第三に、伝記、ルポルタージュ、女性史の記述における、徹底した事実の追及。」

「第四に、繊細さと強靱さが釣り合った文体の緊張感。」と指摘している。

いわゆる「時代を透徹する目」を持っていた。

千葉でひとしきり語り合ったことが思い出される。

願わくばあと少し、あとひととき、話したかった。

田代真人 2025年1月27日 記